

(1) 実施機関名：

新潟大学

(2) 研究課題（または観測項目）名：

（和文）日本海沿岸地域を中心とした地震・火山噴火関連災害の解明のための史料収集と解析

（英文）Collection and analysis of historical documents for clarification of disasters related to earthquakes and volcanic eruptions on the coast of the Sea of Japan

(3) 関連の深い建議の項目：

1 地震・火山現象の解明のための研究

(1) 史料・考古・地形・地質データ等の収集と解析・統合

ア. 史料の収集・分析とデータベース化

(4) その他関連する建議の項目：

1 地震・火山現象の解明のための研究

(2) 低頻度かつ大規模な地震・火山噴火現象の解明

地震

火山

2 地震・火山噴火の予測のための研究

(1) 地震発生の新たな長期予測（重点研究）

イ. 内陸地震の長期予測

5 分野横断で取り組む地震・火山噴火に関する総合的研究

(4) 内陸で発生する被害地震

(5) 本課題の5か年の到達目標：

1.日本海沿岸を中心とした地震・火山現象に関連する史料を各地の文書館・図書館等の史料保存機関で調査・収集し,新たな史料については翻刻・分析を行い,データベースの構築につとめる.2.史料の収集・分析にあたっては,災害発生前後の環境・地形・天候などにも意識を向け,地震・火山噴火が複合・連鎖する災害（積雪,融雪,降水などに伴う地すべりや洪水など）の発生メカニズムの解明に貢献する.3.従来重視されることの少なかった年代記や絵図,一枚摺などの史料にも注目し,地震・火山等の歴史災害研究に必要な新たな災害史料学の展開を試みる.4.これまでの研究で実施してきた事例の中から,日本海沿岸地域を中心とした地震関連災害の解明を重点的に行う.とくに日本海沿岸地域は冬期の積雪が多いことから,地震災害と積雪との複合災害について研究を推進する.5.収集・分析した史料に基づき,日本海沿岸地域で発生した内陸地震の震度分布図を作成する.また,震度分布図の作成に用いた史料・位置・震度などの各種データを活用し,内陸地震の規模や震央を再検討して内陸地震の長期予測に寄与する.6.同じ研究対象を歴史学・考古学・地理学の研究者等が共同で研究を行うことにより,地震・火山等災害研究において異なる学問分野の研究者が連携することの重要性を明示する.

(6) 本課題の5か年計画の概要：

期間を通じて,日本海沿岸を中心とした地震・火山現象に関連する史料を各地の文書館・図書館等の史料保存機関で調査・収集し,新たな史料については翻刻を行う.また,歴史学・考古学・地理学の研究者が参加する研究会を開催し,各研究者が同じ研究対象を共同で研究する.令和6～9年度は,収集した史料を分析し,地震・火山等の災害記録として活用できるデータを抽出する.近代的な観測データとの比較・検討が可能となる総家数・倒壊家屋数・即死者数等が記載される良質な史料については被害表等を作

成する。収集した災害関連の絵図については、絵図記載の文字の翻刻・トレース図の作成を行う。地震・火山噴火が複合・連鎖する災害（積雪、融雪、降水などに伴う地すべり・洪水など）の発生前後を知りうる史料についてはその推移を明示する。令和10年度は、年代記や絵図、一枚摺などを地震・火山等の歴史災害研究に活用する方法を提示する。また、過去の地震・火山等による複合災害・連鎖災害の発生メカニズムのモデルケースを提示する。そして、歴史学・考古学・地理学研究者等が共同で研究してきた成果を吟味し、異なる学問分野の研究者等の連携研究の方法を明らかにする。

(7) 令和6年度の成果の概要：

・今年度の成果の概要

今年度の主な成果は以下のとおりであり、計画通りに順調に進んだと言える。

1. 日本海沿岸地域を中心とした地震・火山現象を解明するため、各地の史料保存機関に所蔵される史資料の調査と分析、既刊の地震・火山噴火史料集に所収される史料の原本調査に基づく校訂作業を実施した。

(1) 1361年南海トラフ地震の東海地震関連史料の収集・分析

三河国渥美郡の常光寺（愛知県田原市）伝来の『常光寺王代記并年代記』の康安元年地震記事「自六月一日、迄廿一日、大地震、地破」の出典について史料学的に検討した結果、14～15世紀前半の記事は著者樹王が遠江国浜松庄普濟寺（静岡県浜松市）で得た出典に基づいており、当該記事の地震は遠江でおきた可能性が高いとした。

(2) 近世後期の地震による液状化噴砂を示す絵図の分析

現在の新潟市西区を描いた近世絵図「西川筋道上山付近絵図（断簡3点）」（新潟市歴史博物館所蔵）について現地比定を行い、描かれる新田の「亥砂入」の範囲が海岸砂丘と氾濫原との境界域に位置することを明らかにし、その形状が砂丘列に平行して細長く伸びること（2024年能登半島地震による被災地と同じ）などから、地震に伴う液状化現象（噴砂）により砂入として年貢減免地を示すために作成されたこと、その地震は年貢減免される亥年の前年戌年の1802年佐渡小木地震の可能性があるとなどを提示した。

(3) 1828年の越後三条地震・シーボルト台風の史料の諸写本の史料学的検討

1828年のシーボルト台風・越後三条地震の被害情報などを記す史料の写本が各地に残ることについて、新たに翻刻分析した越後国古志郡種芋原村（現長岡市山古志）庄屋坂牧家の写本2点を含む4点の写本の内容を比較検討することにより、伝写の系統や原典を探るとともに、台風・地震等の複合災害に対する「災害知」集積の一環として書写された側面があったことを示した。

(4) 既刊地震史料集の校訂作業

1833年庄内沖地震における能登半島の被害を記した「秀藤日記」の記事について原本（石川県珠洲市飯田、春日神社所蔵「葛原秀藤日記」）コピーにより確認し、『新収日本地震史料 補遺続』等に記載される輪島の津波被害者数は100人でなく200人であったことなどを指摘した。

(5) 絵図・地図による新潟市西区の潟跡についての検討

2024年能登半島地震により新潟市西区で被害を受けたかつて潟のあった地域を知るため、近世に作成された坂井郷産絵図と享保4年（1719）北場・亀貝・小新野手場書上絵図（新潟市文書館所蔵亀貝・坂井家文書）を調査しトレース図を作成した。また『西蒲原郡全図』（1914年）について、新川（悪水を海に流す堀割、1820年通水）が描かれる以前の近世絵図も活用して検討し、二枚目潟・ガイルマ潟・マトバ潟・徳仁潟・浦潟・大潟・田潟・安兵衛池・鎧潟・ツノ潟・左（佐）潟・上堰潟の潟と名称が記され、潟名のない潟は白鳥潟であることを確認した。

2. 考古学による弥生時代に発生した津波災害の検討

仙台市杓形遺跡で判明した弥生中期中葉（2000 calBP）の大規模な三陸地震津波が発生する以前の弥生時代の集落遺跡の消長分析を行った。その結果、広域的な一斉衰退現象（廃絶を含む）が中期初頭のとくに三陸沿岸～大崎平野で顕著で確認できた。但し、この年代に相当する津波堆積物の検出エリアとはズレがあるため津波によるものかどうかは今後の検討課題である。

3. 歴史学・考古学・地理学研究者が参加する第12回歴史地震史料研究会の開催

2024年11月10日に第12回歴史地震史料研究会をオンラインにて開催し、本課題研究者メンバーを中心とした歴史学者7人・地理学者2人・考古学者1人・地震学者1人による研究発表・討議を行った（参加者33人）。

・「関連の深い建議の項目」の目的達成への貢献の状況と、「災害の軽減に貢献する」という目標に

対する当該研究成果の位置づけと今後の展望

今年度は各地の史料保存機関に所蔵される史資料等の調査を行い、1361年東海地震、1802年佐渡小木地震、1828年越後三条地震、1833年庄内沖地震等について、既刊の地震関連史料集収載のうち重要な史料を調査し校訂するとともに、既刊史料集に収載されていない史資料を新たに収集・分析した。また近世の絵図や近代の地図を検討し地震被害が発生しやすい新潟市西区の潟跡の位置等を確認した。さらに考古学的な検討により弥生時代中期初頭に東北地方太平洋側に地震津波があった可能性を指摘した。

今年度に分析した史資料には、従来重視されることの少なかった年代記や絵図も含まれており、研究課題の目標の一つに掲げた新たな災害史料学に必要な素材を得ることができた。これらの成果は、研究計画のうち「関連の深い建議の項目」の1.(1)ア.史料の収集とデータベース化に十分寄与できると考えられる。次年度以降も新たな地震・火山関連の史資料等の収集・調査・分析を進め、今後の災害被害の予測をはじめ災害の軽減に貢献したい。

(8) 令和6年度の成果に関連の深いもので、令和6年度に公表された主な成果物（論文・報告書等）：

・論文・報告書等

小野映介,2024,令和6年能登半島地震によって生じた越後平野における地盤災害,2024年日本地理学会春季学術大会要旨集,57-57, DOI:https://doi.org/10.14866/ajg.2024s.0_57

小野映介,平安京左京南部における地形環境変遷,災害・復興と資料,16,30-37.,査読有,謝辞有

小野映介・佐藤善輝,2024,地形環境史研究—地理学と考古学・歴史学の接点,古今書院,1-183.

片桐昭彦,2024,災害記録としての『新選和漢合図』写本,災害・復興と資料,16,59-67.,査読有,謝辞有

片桐昭彦,2024,年代記の地震記事と出典—『常光寺年代記』の康安元年地震記事—,第12回歴史地震史料研究会講演要旨集,19-21.,謝辞有

齋藤瑞穂・鈴木正博,2024,先史三陸地震津波概論—縄文時代篇—,災害・復興と資料,16,1-29.,査読有,謝辞有

齋藤瑞穂・鈴木正博,2024,弥生三陸地震津波研究—弥生時代中期中葉以前の環境変動—,第12回歴史地震史料研究会講演要旨集,12-15.,謝辞有

原直史,2024,文政十一（一八二八）年複合災害の様相—豪雨・飢饉・台風・地震—,災害・復興と資料,16,1-13.,査読有,謝辞有

原直史,2024,1828文政11年複合災害の情報伝播—越後国を中心に—,第12回歴史地震史料研究会講演要旨集,28-30.,謝辞有

原田和彦,2024,安政江戸地震における松代藩邸の被害,災害・復興と資料,16,88-98.,査読有,謝辞有

原田和彦,2024,前近代における長野県大北地域の地震活動,第41回歴史地震研究会（木曽御嶽大会）講演要旨集,3-3.,謝辞有

原田和彦,2024,江戸時代における長野県北部の地震活動,第12回歴史地震史料研究会講演要旨集,22-23.,謝辞有

堀健彦・片桐昭彦,2024,近世期における新潟市西区を描いた絵図と2024年能登半島地震による被害,第12回歴史地震史料研究会講演要旨集,4-5.,謝辞有

矢田俊文,2024,八戸藩における1843年・1856年の地震による津波被害,災害・復興と資料,16,68-75.,査読有,謝辞有

矢田俊文,2024,新潟県西蒲原郡の地図と潟—20世紀初頭—,第12回歴史地震史料研究会講演要旨集,6-8.,謝辞有

・学会・シンポジウム等での発表

- 小野映介,2024,令和6年能登半島地震によって生じた越後平野における地盤災害,2024年日本地理学会春季学術大会,731, DOI:https://doi.org/10.14866/ajg.2024s.0_57
- 片桐昭彦,2024,歴史地震記録としての年代記,巨大地震・巨大津波に関する国際研究集会—2004年スマトラ・アンダマン地震から20年間の進歩と今後の展望—,9-2.
- 片桐昭彦,2024,前近代における地震と史料,日本地震学会強震動委員会第43回研究会.
- 片桐昭彦,2024,年代記の地震記事と出典—『常光寺年代記』の康安元年地震記事—,第12回歴史地震史料研究会,7.
- 齋藤瑞穂・鈴木正博,2024,弥生三陸地震津波研究—弥生時代中期中葉以前の環境変動—,第12回歴史地震史料研究会,5.
- 中村元,2024,1964年新潟地震とその復興の歴史的意味—「開発の時代」における意味と課題を考える—,新潟市地震60年・新潟県中越地震20周年公開シンポジウム「そなえる・すくう・たちあがる」,6.
- 原直史,2024,1828文政11年複合災害の情報伝播—越後国を中心に—,第12回歴史地震史料研究会,10.
- 原田和彦,2024,前近代における長野県大北地域の地震活動,第41回歴史地震研究会（木曽御嶽大会）,O-03.
- 原田和彦,2024,江戸時代における長野県北部の地震活動,第12回歴史地震史料研究会,8.
- 堀健彦・片桐昭彦,2024,近世期における新潟市西区を描いた絵図と2024年能登半島地震による被害,第12回歴史地震史料研究会,2.
- 矢田俊文,2024,新潟県西蒲原郡の地図と潟—20世紀初頭—,第12回歴史地震史料研究会,3.

(9) 令和6年度に実施した調査・観測や開発したソフトウェア等のメタ情報：

(10) 令和7年度実施計画の概要：

今年度に引き続き地震・火山現象に関連する近代観測開始以前の史資料（とくに年代記や絵図等に注目）を調査・収集し、新たな史資料については翻刻・分析を行う。とくに1666年越後高田地震、1847年善光寺地震、1858年飛越地震など冬・春季に発生した地震と積雪・融雪との複合災害に注目して史料や絵図を収集・分析する。また考古学・地質学・地理学の観点からは十和田火山平安噴火について吉田遺跡（青森県つがる市）、および弥生時代前期の災害について駄坂川原貝塚（兵庫県豊岡市）を調査する予定である。また、歴史学・考古学・地理学研究者とともに研究会を開催する。

(11) 実施機関の参加者氏名または部署等名：

片桐昭彦（新潟大学災害・復興科学研究所、同人文学部）、矢田俊文（新潟大学人文学部）、原直史（新潟大学人文学部）、堀健彦（新潟大学人文学部）、中村元（新潟大学人文学部）、北村繁（新潟大学教育学部）、森貴教（新潟大学人文学部）、小野映介（駒澤大学文学部）、齋藤瑞穂（神戸女子大学文学部）、原田和彦（長野市立博物館）

他機関との共同研究の有無：無

(12) 公開時にホームページに掲載する問い合わせ先

部署名等：新潟大学災害・復興科学研究所

電話：025-262-6542

e-mail：katagiri@human.niigata-u.ac.jp

URL：

(13) この研究課題（または観測項目）の連絡担当者

氏名：片桐昭彦

所属：新潟大学災害・復興科学研究所